

班	講 評
6	<p>今回の論点の最初の部分は、内部統制報告制度の意義の記述であったために基本的には同じ論調が多くなる傾向にあり、その部分での点差は大きかつかなかったと思います。点差が付く部分としては「内部統制報告制度の導入後も企業の不正事例が後を絶たない現状について」の自身の考えの部分だったと思いますが、多くの人はその部分について簡単にしか書いておらず、少し残念な結果であったと思います。特に、報告制度の意義でほとんどのスペースが埋っており、自身の考えは数行であるようなものが見受けられたのは残念でした。</p> <p>テーマに沿った記述がなされているものの、一般的な記述が多く自身の考えを具体的に論じていないものが多かった。自身の考えを具体的に述べられるように、実務の中でも細かい作業をする中でも制度の意義など大きな観点で時には考えることが重要と考える。</p>
7	<p>内容： 各々の記載は出来ていました。前段(三者の視点からの説明)と後段(企業の不正事例が後を絶たない現状)に繋がるような記載にすると、読み手に非常に解り易いです。 また、自分の考えを述べる際は基準通りの回答よりも、現状の制度や基準の問題点を踏まえ、何が足りていないのか、どう改善するのかという点から記載すると評価は高いです。</p> <p>形式： 1 ページ横 40 文字×縦 40 行の設定 1,600 文字を守って下さい。また、表紙のチェックボックスにチェック忘れがないか、提出前に再度確認して下さい。</p> <p>今回は形式面での不備が相対的に多かったです。論文を書き終えた後に、客観的な観点から自分の論文を再度読み直し、形式面での不備がないか確認するクセをつけていってほしいです。</p> <p>各立場からの内部統制報告制度の意義については、どの補習生も言及できていたと思います。 一方で、内部統制報告制度導入後に発生している不正事例の現状について自分の意見を述べるという点については、補習生の中での巧拙がわかれていた印象です。 字数制限がある中で、内部統制報告制度について基準等から引用する部分に必要以上の字数を割ってしまったがために、十分に自分の意見を述べていけないと、課題研究において問われる「あなたの考えを述べなさい」という問いにしっかり答えられていないととらえられるので、文章全体の字数に対して、まず自分の意見を論理的かつ明確に記載するには、どの程度の字数を割く必要があるのかということ念頭に置いたうえで、文章全体のバランスを考えて執筆することを意識した方が良いと思います。</p>
8	<p>リスク・アプローチ、制度の限界、不正事例が後を絶たない理由について深掘りしているレポートについては、よく書けている印象であるため、評価は高くなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に、テーマ前半(=内部統制報告制度についての財務諸表作成者・利用者・監査人の各立場からの論述)の比重が高く、後半(=不正事例が後を絶たない現状の論述)が尻すぼみになる傾向がみられた。 ・前半の内部統制制度の論述を踏まえたうえで、後半の不正事例の論述につなげるなどの、論理的な展開を期待したい。 ・不正事例について、不正が後を絶たない理由を述べるにとどまらず、自らが考える改善策にも言及した方がよい。
9	<p>形式面については、第一回と比べて減点されている方が減っている印象を受けました。 内容面としては、内部統制の限界として、経営者による内部統制の無効化と、新しい取引には現状の内部統制がうまく合致しない場合があることをうまくまとめていらっしゃる方もいました。今回は、内部統制の問題について大きな観点でうまくまとめられるとよい論文となったかと思います。</p> <p>テーマとして、内容面は、全体的に代わり映えの無い論述であった。テーマ後段である、自身の考えについて、あまり深く論述されているものが少なく、少し残念な印象であった。なお、形式面では、誤字脱字は無いもの、改行等、留意すべき論文もあり、以後、気を付けていただきたい。</p> <p>文字数が少ない中で、取捨選択して、必要と考えられる要素や補習生の考えや意見を上手く纏められているか否かで点差を付けた。お題としても、教科書的な回答もできるものだったが、それだけに終始するのではなく、調べて、自分なりの発展的な考えを整理していけるようになると良いと考える。</p>

10	<p>監査法人の勤務経験がない中で、内部統制をイメージするのはなかなか難しかったと思います。また、内部統制報告制度の説明が求められていることから、説明を重視し、自分の考えをしっかりと述べられている論文が少なかったと思います。</p> <p>今後は自分の考えをしっかりと述べるとともに、各立場からの内分統制報告制度の意義を意識した考えが述べられると、さらに良くなると思います。</p>
	<p>各ステークホルダーにとっての内部統制報告制度の意義については、全体的によく書けていたと思う。</p> <p>一方で、同制度導入にも関わらず不正があとを絶たない状況については、深い現状分析と各自が考える対応策の提示について力点を置いて文章が展開できていればよりよい文章になったと思う。</p>
42	<p>第 2 回課題研究お疲れ様でした。</p> <p>構成として、内部統制報告制度の意義について三者を章立てして自説を展開された方がいた一方、本論とは関連性の低い内容(例:内部統制の定義や固有の限界)について言及された方もいました。字数が少ないことも加味し、本論とは関係のない説明は省略または簡略化する必要があります。本論と関連しない、または関連性が明示されていない部分は配点されません。</p> <p>また、内容としては、それぞれの立場からの意義についても、具体的に掘り下げることができたか、その論拠をサポートする参考文献や引用の有無が採点結果に大きく影響しています。字数に関わらず、自説を展開し、その論拠を支える客観的な情報を収集することが必要です。</p> <p>内部統制報告制度の意義については、しっかりと説明出来ていました。また企業の不祥事が後を絶たない現状についても、様々な考えを述べていただきました。これを機に、過去の不正事例や不正の手口を調べてみることをお勧めします。今後の会計士人生において、必ず役に立つときが来ると思います。</p> <p>あまり長くないテーマ研究のまとめの為には、適格な文章構成と理解しやすい展開が重要となります。皆さんそれなりにまとまっていたので大きな点差にはなりませんでしたが、その中で 20 点近く評価に差が出たのは、文章構成力の差だと思います。</p> <p>内部統制制度の意義(経営者・利用者・監査人のそれぞれの立場から)については、関係する基準等を参考にみなさんよく記載されていたと思います。</p> <p>一方、内部統制監査制度が導入されても不正がなくなる点に関する考察については、記載内容に差がありました。具体的には、不正が発生した原因に言及すると共に、制度面での改善等まで含めて対応策を具体的に考察されている課題研究と、職業的懐疑心の保持といったところまでで、そのための具体的な対応策までは言及していない課題研究とがあり、その点で内容面に差が出たと思います。</p>